

教専寺新聞

「いのち」

令和五年九月号

No.238

八月八日(日本時間九日)、ハワイ・マウイ島の山火事を原因とする大規模火災により、島内のラハイナを中心に甚大な被害が発生しました。

浄土真宗本願寺派ハワイ開教区ラハイナ本願寺においても、本堂・庫裡・ホール(会館)・プリスクール(保育園)などが全焼し、駐在僧侶の廣中 愛(ひろなか・あい 崇徳高卒業生)開教使は家族とともに避難。メンバー(門信徒)の方々の安否については、ラハイナ中心部への立ち入りが規制されていることから、その確認に時間を要している状況です。

明治以来、広島からも多くの方々が移民としてハワイに渡られました。ハワイと広島はお念仏を通して深いご縁があります。

被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

今月の予定

【仏教婦人会例会】

15日(金)午後1時半より

【清掃奉仕】

毎週金曜日午後2時より

【田方・教安寺】秋彼岸法要

24日(日)午後1時半より

お盆期間中は、帳場のお手伝い、仏婦の皆さまの当番、灯ろうの片付けとありがとうございました。また、めだかの鉢にホテイ草を入れてくださった方もありがとうございました。(心当たりの方にお声がけさせていただきましたが、どなたも違っていましたので、書かせていただきました)

来月のお知らせ

寺号公称400年記念講演会

10月7日(土)午後2時～4時 教専寺にて

ほんなまさのり

講師 本名正憲 元中国放送 RCC アナウンサー

詳細は別紙チラシ、ポスターをご覧ください

ハワイからのお念仏の声

ハワイでの開教(お念仏のみ教えを伝え広める)の歴史はカメハメハ王朝の時代までさかのぼります。明治になつては日本から多くの方々が移民として太平洋を渡られました。本願寺から正式に開教使が派遣されたのは一八九七(明治三十)年で、その二年後にはハワイで最初の本堂である「ハワイ本願寺」(後のホノルル別院)の本堂が落成しました。

移民の方々はふるさとから遠く離れ、心細い状況の中、過酷な重労働の日々をすごしつつ、西に沈む夕日に手を合わせ、ハワイのお寺にお参りされて、お念仏とともに歩んでおいでになりました。

そのいのちの抛りどころのラハイナ本願寺がこのたびの大規模な火災によって燃え落ちてしまいました。

ハワイ本願寺の海谷聡之開教総長は、このたびのハワイ島の災害についてつぎのように述べられています。

「マウイ島の回復は何年もかかることでしょう。多くの人々が不確実な将来に不安を抱えて生きています。念仏の旅人として、この未曾有の出会いがもたらす苦しみと悲しみを経験している人々と連帯しましょう。

寺院の建物が被害を受けても、念仏の教えを聞き、共有したいという私たちの真摯な願いは消えることはありません。これは、ラハイナ本願寺の百十九年の歴史の終わりではありません。念仏の声が広がる社会づくりにこれからも精進してまいります。

阿弥陀仏の智慧と慈悲が私たちをつつんでくださいます。念仏の声が私たちに平和と安らぎをもたらします。前進する勇気を与えてください。ナモアミダブ

ツ。」(原文は英語です)

一月のことは 第四七九号